

決算・予算の内容を審議しました

20年度決算認定 一般会計

徴収・滞納対策

問 (近藤大介議員)

税金を健康的な理由や失業等で納めることができない人に対し、税法に基づいた執行停止などの取り組みは。

答 (中田豊三税務課長)

不動産調査、預金調査、生命保険の調査を徹底的に行い、さらに動産の調査と生活状況の調査を加味し、納められないことが判断できれば執行停止をかける。

問 (野口昌作議員)

住宅費使用料に581万5134円の未収があるが、徴収の努力は。

答 (押村彰文建設課長)

督促状の送付と臨戸訪問を重ねながら、徴収に努めている。臨戸訪問では、住宅使用者から分納の誓約書や、口頭で支払いの約束を受けるが履行されなかったと考える。

ふるさと応援寄付金

問 (西尾寿博議員)

決算額が当初より減額。

反省点と今後の戦略は。

答 (田中豊総務課長)

6月に補正で200万円計上したが、結果的に91万9000円。人数は34人で大半が県外。1人当たりの額は5000円や1万円と少額。今後は、観光商工課とも連携し、県内外の誘致企業、大口の寄付を募りたい。

大山町特産品づくり

問 (吉原美智恵議員)

農家との信頼関係、共有意識ができていますか。

答 (福留弘明大山振興課長)

約200名の登録生産者があり、現在も増えている。生産者組織に8つの部会を設け、品目に応じ、生産者が考える組織の構築を行っている。大山恵みの里公社では、生産者とのコミュニケーションを図る体制を整備。お互いの信頼関係に基づいた良質な物を消費者に届ける努力をしていく。

農作物鳥獣被害対策

問 (野口俊明議員)

イノシシの被害が増えている。現状把握、連携

強化と今後の対策は。

答 (池本義親農林水産課長)

オリを設置しても思うように捕獲できない現状がある。免許保持者と連携を密にし、補助制度も利用しながら、チェックと現状把握を行い、今後の対応を強化したい。

結婚対策

問 (小原力三議員)

大山町結婚対策協議会の活動成果と今後は。

答 (野間一成企画情報課長)

出会いの場を3回設けた。カップルは、7組誕生(町内の男性、女性は2名ずつ)。今後は町長の方針に沿って見直していく。

小地域懇談会

問 (吉原美智恵議員)

参加率向上への努力と、内容の決定方法。また、推進員の研修は。

答 (近藤照秋人権推進課長)

PR活動、啓発活動、事前研修会等を開催。内容は人権同和教育の連絡協議会で決定。推進員には事前研修会にて指導を行った。今年度は司会者

の研修会も考えている。

教育関係

英語指導

問 (杉谷洋一議員)

中学校の外国語指導助手の勤務実態は。また、小学校の英語教育との兼ね合いは。

答 (狩野実教育次長)

20年度は委託契約1日で6時間、週20時間程度の勤務。中学校を基点に割り振り、小学校への対応も行った。

読書活動

問 (近藤大介議員)

子どもの読書環境の整備は。また、図書館での本の貸出を増やす取り組みは。

答 (山根浩教育長)

様々な形で読書活動、特に生涯学習の中での図書館の位置づけを強化。本の好きな子が増えており努力を継続する。

答 (狩野実教育次長)

文部科学省の読む調べる習慣の確立に向けた実践研究事業を受け、保育所、学校への本の購入による図書整備、保育所



道の駅人気No.1 大山ピーナッツ